



【アビジャン自治区内のインフラを視察する横浜市事業所管局職員の様子】

ヨコハマの国際事業の  
主な動きをお届けする

# YOKOHAMA INTERNATIONAL DIGEST

平成 30 年 5 月 22 日  
【発行】横浜市国際局政策総務課  
企画担当 045-671-4710  
ki-somu@city.yokohama.jp

## アビジャン自治区で都市課題解決に向けた技術協力を実現しています

4月23日から26日にかけて、渡辺巧教副市長と日本アフリカ友好横浜市会議員連盟の佐藤祐文会長をはじめとするメンバーが、コートジボワール共和国アビジャン自治区を訪問しました。



横浜市とアビジャン自治区は、平成29年9月に「交流協力共同声明」を発表し、都市課題の解決や若い世代の交流、女性の活躍等の分野で連携していくことで合意しています。



今回、アビジャン自治区と「都市課題解決経験共有セミナー」を開催し、事業所管局から横浜の取組を紹介したほか、小学校やビジネスウーマンとの交流、ロベール・

ブグレ・マンベ アビジャン自治区知事との面会等、共同声明に沿った協力を進めました。



## 横浜市がイスラエル国、チュニジア共和国のホストタウンとして登録されました

イスラエル国とは、平成24年に、テルアビブ-ヤッフオ市との間で共に成長するため交流と協力を深めていく「共同声明」を行ったこと、チュニジア共和国とは、平成20年の第4回、25年の第5回アフリカ開発会議を横浜で開催したことを契機として、文化交流等を通じて関係を深めてきました。

こうしてこれまで積み重ねてきた関係を基盤として、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における、両国とのホストタウン登録を申請していたところ、4月27日に登録が認められました。

今後は、市民と各国オリンピック選手との交流等を通じて、両

国との関係を一層発展させていきます。

## チャリティウォークイベント「WFP ウォーク・ザ・ワールド」が開催され、過去最高の約4,700人が参加しました

5月13日にチャリティイベント「WFP ウォーク・ザ・ワールド」が、国連WFP協会主催で開催されました。

本市が後援したこのイベントには、約4,700人が参加し、みなとみらい地区や横浜マリンタワー、馬車道など横浜ならではの景色を眺めながらウォーキングを楽しみました。また、ゲストに元モーグル日本代表の上村愛子さんを迎え、天候が心配される中大変盛り上がりしました。



国連WFPによると、参加費の一部が学校給食支援に充てられ、約440万円以上、約14万人以上の子どもたちに給食が届けられるそうです。